



ジェンダー平等を実現しよう

性別による無意識の思い込みをなくそう

あなたにとっての
“普通”は
“常に普通”では
ありません。



「男なのに」「女なのに」と、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験はないですか。「お茶出しは女性の仕事だ」など、職場において、性別だけを理由に役割を決められている場合があるかもしれません。また、「女の子なのによく食べるね」などといった無意識の偏見から生まれる言葉は、無意識に相手を傷つけているかもしれません。

また、自分自身に対しても、無意識のうちに性別に基づく役割や思い込みについて、強い固定観念を抱いていることもあるのではないのでしょうか。

性別にこだわらず、個人の気持ちや個性を尊重できるように、ジェンダーに関する自らの意識を見つめ直してみましよう。

ジェンダーに関する チェックシート

- 「男のくせに」「女のくせに」と思うことがある。
- 部活動のマネージャーは女子の方が向いていると思う。
- 力仕事は男子がやってあげた方がいい。
- 将来自分の子どもが女の子だったら優しくかわいらしい子に育てたい。
- 女子は文系、男子は理系の勉強が向いていると思う。

チェックが多いと男女の役割に
こだわりがあるかも！

家事を分担しよう

お互いを思いやり
ことも大事ですね！



共働き家庭においては、夫・妻それぞれの「家事・育児・介護」と「仕事」のバランスを図ることが重要ですが、2018年の家事分担割合は妻83.2%、夫16.8%と、妻の負担が重くなっています。

また、家事というと、料理や掃除、洗濯などをイメージしますが、食事の献立を考えることやゴミ袋のセット、洗剤の詰め替えなど、細かな「見えない家事」も多く存在しており、こうした「見えない家事」も妻が担っている割合が高くなっています。

「見えない家事」も含めたすべての家事を洗い出し、家事のチェックリストを作成して共有したり、家事の満足度を上げるため、家庭内で意識して家事について話し合うなど、夫婦間の家事負担のバランスが図れるように取り組んでみましよう。



TOPICS 子育てをしながら働き続けられる職場づくり

子育て中の人がいる職場では、応援体制を整え、業務内容や進捗状況を共有し、チームワークで支えるなど、上司の理解や周囲の協力が不可欠です。子育て中の人自身も、仕事上の責任を果たすことはもちろん、他のメンバーを積極的に手助けするなど、信頼関係を築くことが大切です。互いを思いやり、助け合いながら仕事ができる職場づくりを進めましよう。

その他の取組

- 男性の育児休業などの制度を活用しよう
- 女性の視点や価値観を尊重しよう
- 企業や団体のジェンダーバランスをチェックしよう

東三河ヤクルト販売株式会社 片桐 空美さん

会社は「あいち女性輝きカンパニー」に認証されており、女性が働きやすい環境が整っていますが、真に女性が働き続けられる職場となるには、会社の取組だけでなく、社員一人ひとりの意識や取組が重要です。育児や介護など様々な事情を抱える社員がいる中で、お互いを理解し、信頼関係を築くことが何より大切です。また、一人にしかできない仕事をつくらない、スケジュールや仕事の進捗状況を共有するなど、助け合って仕事ができる環境づくりも重要です。他にも、女性が生き生きと働けるよう、例えば、重いものを簡単に持ち上げられる資機材の導入など、女性ならではの視点を生かした提案をすることもできる取組の一つです。

